

凍結療法を開始しました Cryoablation



凍結療法とは

現在、乳がんに対する根治的手術は、比較的整容性の高い乳房温存手術が半数以上を占めていますが、近年一層の整容性が望まれるようになりました。そのため一部の早期乳がんに対し、切除手術の代わりに整容性が極めて高い非手術的治療（超音波集束療法、ラジオ波熱凝固療法、凍結療法）が試みられています。

近年の乳がん画像診断の飛躍的な進歩により、小さな非触知乳がん（触診ではわからない乳がん）の発見が増加しています。今後このような小さな乳がんに対する非手術的治療の必要性が高まると考えられます。

2014年より、米国で乳がんに対する凍結療法の臨床試験が開始されました。その試験の中間報告で、凍結療法が乳房温存手術と同等の治療成績であることを示すとともに、安全性の高い治療であると報告しています。凍結療法は凍結そのものに鎮痛作用があるため、他の非手術的治療と比較して疼痛が少なく、局所麻酔下で施行できる利点があります。また乳房超音波を見ながら行うことにより、治療対象の乳がんを確実に凍結することができます。このような方法であることより、

日帰りで手術を受けることが可能です。日々の仕事や生活に多忙な日本女性にとって、日帰り手術で済む凍結療法は、小さな乳がんに対する治療の選択肢のひとつになると考えています。

2018年より当院では、早期乳がんに対して凍結療法を臨床試験として実施しました。その結果、凍結療法を行ったすべての患者さんの乳房に乳がん組織は残っていませんでした。また整容性は満足できるものでした。この結果を踏まえ、小さな乳がんに対する凍結療法の自費診療を開始しました。

凍結療法の特長

- ☆整容性に優れている
- ☆疼痛が少ない
- ☆局所麻酔で行える
- ☆日帰り手術